

一般社団法人日本森林学会 2019 年度事業報告

(事業期間：2019 年 3 月～2020 年 2 月)

- (1) 「日本森林学会誌」の発行： 2019 年 4 月 (第 101 巻第 2 号), 6 月 (同 3 号), 8 月 (同 4 号), 10 月 (同 5 号), 12 月 (同 6 号) 及び 2020 年 2 月 (第 102 巻第 1 号) の年 6 回発行し, 科学技術振興機構の J-STAGE で公開した。論文 34 編, 短報 13 編, 総説 1 編, その他 (巻頭言) 5 編及び学会記事を掲載し, 総計 442 ページとなった。ページ数は昨年度に比べて約 168% であった。第 102 巻第 1 号より, 表紙写真を変更した。
- (2) 「Journal of Forest Research」の発行： 2019 年 4 月 (Vol. 24 No. 2), 6 月 (No. 3), 8 月 (No. 4), 10 月 (No. 5), 12 月 (No. 6) 及び 2020 年 2 月 (Vol. 25 No. 1) の年 6 回発行した。この 6 回は特集の掲載はなかった。総ページ数は 387 ページとなり, 昨年度より 9 ページ少なかった。電子版の周知を図るため, メールマガジンを用いて会員に発行を知らせるとともに, 日林誌と学会ウェブサイトで発表論文の日本語書誌情報を掲載した。2018 年の Impact Factor は 0.777 であった。
- (3) 「森林科学」の発行： 2019 年 6 月 (86 号), 10 月 (87 号), 2020 年 2 月 (88 号) の年 3 回発行した。特集「小笠原島嶼生態系の研究と保全 (前編)」「小笠原島嶼生態系の研究と保全 (後編)」「雪とたたかう森林」をはじめ, シリーズ「森めぐり」「現場の要請を受けての研究」「うごく森」「森をはかる」「林業遺産紀行」「森をたべる」等, 総計 164 ページを掲載した。学会入会や購読の促進等のために小笠原村等が主催するシンポジウム「オガグワの集い」において 86 号の冊子を販売した。森林科学リニューアルに向けて, 理事, 主事, 編集委員等から構成されるリニューアルワーキンググループを立ち上げ, 3 回の会合を開催して表紙デザイン, 全編フルカラー化, シリーズの再構成について検討を行った。
- (4) 「日本森林学会メールマガジン」の発行： 第 106 号 (2019 年 3 月) ～第 117 号 (2020 年 2 月) を発行した。
- (5) ウェブサイトの更新： ウェブサイト更新を随時行い, 最新情報を掲載した。大会や表彰をはじめとする各種の学会情報を会員に発信するとともに, 学会刊行物などの学会活動について随時発信・広報した。大会発表申し込み及び発表要旨集のオンライン入稿を支援した。大会ページの視認性・わかりやすさを高めた。その他, 研究集会・シンポジウムや公募等の関連情報を提供・広報した。Web 編集管理に用いている Movable Type のバージョンアップを行い, セキュリティの維持に努めた。
- (6) 第 130 回日本森林学会大会の開催： 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター (新潟市) で開催した (2019 年 3 月 20～23 日; 大会運営委員長: 紙谷智彦会員, 新潟大学)。研究発表は総計 811 件で, 内訳は部門別口頭発表 210 件, 部門別ポスター発表 436 件, 公募セッション及び企画シンポジウム口頭発表 130 件, 公募セッションポスター発表 35 件であった。高校生ポスター発表を併催し, 31 件の発表があった。公開シンポジウム「雪国の森と木を活かす」を, 国

土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催した。学会企画として「森林環境税（仮称）及び森林経営管理法を契機とした森づくり～森林環境税（仮称）及び森林経営管理法とは～」、「ダイバーシティ推進ランチョン Workshop2019～森林学会の多様性について考える／今学会で必要なダイバーシティ推進とは？～」及び「日林誌に論文を出す」を開催した。「第130回日本森林学会学術講演集」を発行した。

(7) 第131回日本森林学会大会の開催準備：名古屋大学東山キャンパス（愛知県名古屋市）での開催を準備した（2019年3月27日～30日；大会運営委員長：竹中千里会員，名古屋大学）。2019年5月9日に新潟大学東京事務所において大会運営委員会引継会議を開催した。公募セッションと企画シンポジウムを会員から公募し，公募セッション6件，企画シンポジウム13件を採択，14の部門別口頭・ポスター発表とともにウェブ登録システムによって研究発表申込を受け付けた。第7回高校生ポスター発表を企画し，全国の高校からの発表申込を受け付けた。公開シンポジウム「人と森とSDGs—東アジアからの報告」を企画した。学会企画として「『国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する法律』の概要」「ダイバーシティ推進セッション：森林学会におけるダイバーシティの実現について考える～だれもが楽しく参加できる学会・大会を目指して～」及び「森林学会発行の2誌における査読のプロセス」の準備を進めた。以上を含めて大会プログラムの編成を行い，「第131回日本森林学会学術講演集」を編集した。コロナウイルスによる新型肺炎感染拡大の影響により，2020年2月より学術大会の開催について臨時の理事会において検討を重ねた。2020年2月25日に懇親会の中止，2020年2月26日に大会の開催中止を決定した。2020年2月28日に第131回学術大会事後処理委員会を設置した。

(8) 第132回日本森林学会大会の開催準備：関東森林学会の推薦に基づき，大会開催機関を東京農工大学とし，大会運営委員長（土屋俊幸会員，東京農工大学）を委嘱し，大会運営委員会を組織した。

(9) 日本森林学会各賞の選考及び日本農学賞等への学会推薦：日本森林学会賞は，隅田明洋会員（北海道大学）の「個体ベースによるヒノキ林葉量の長期変動の解析」，清和研二会員（東北大学）の「樹は語る—芽生え・熊棚・空飛ぶ果実—の出版」，熊谷朝臣会員（東京大学）の「東南アジア熱帯島嶼域における森林破壊が引き起こす気候変化」に，日本森林学会奨励賞は大橋伸太会員（森林総合研究所）の「Seasonal variations in the stable oxygen isotope ratio of wood cellulose reveal annual rings of trees in a Central Amazon terra firme forest」，宮本裕美子会員（北海道大学）の「Temperature niche position and breadth of ectomycorrhizal fungi: Reduced diversity under warming predicted by a nested community structure」に，日本森林学会学生奨励賞は森英樹会員（投稿時：筑波大学，応募時：森林総合研究所）の「Large contribution of clonal reproduction to the distribution of deciduous liana species (*Wisteria floribunda*) in an old-growth cool temperate forest: evidence from genetic analysis」，久野真純会員（レイクヘッド大学）の「Biodiversity as a solution to mitigate climate change impacts on the functioning of forest ecosystems」，向井真那会員（京都大学）の「Productivity and morphological traits of fine roots in forest ecosystems along an elevation gradient of Yakushima Island」に授与することを決定した。また，Journal of Forest Research 論文賞は，JFR 論文賞選考委員会が選考し，理事会で審議した結果，同誌23巻5号に

掲載の Tai Tien Dinh, Yasuaki Akaji, Tetsuya Matsumoto, Takumi Toribuchi, Takushi Makimoto, Muneto Hirobe and Keiji Sakamoto 「Sprouting capacity of *Quercus serrata* Thunb. and *Quercus acutissima* Carruth. after cutting canopy trees in an abandoned coppice forest」に、日本森林学会誌論文賞は、日林誌論文賞選考委員会が選考し、理事会で審議した結果、101 巻 1 号に掲載の木村憲一郎「原発事故が福島県の木材需給に与えた影響と林業・木材産業の現状」、100 巻 4 号に掲載の岡崎千聖・逢沢峰昭・森嶋佳織・福沢朋子・大久保達弘「群馬県のナラ枯れを起こしたカシノナガキクイムシは在来か近年移入の個体群か—遺伝解析に基づく検証—」に、第 130 回日本森林学会大会学生ポスター賞は、理事会の承認を受けたポスター賞選考委員会で選考し、委員長と副委員長で合議した結果、18 名の学生会員に授与することを決定した。また、日本学術振興会賞、日本学術振興会育志賞、日本農学進歩賞、日本農学会賞について、会員からの推薦を受け付け、日本農学会賞に関して理事会で本学会推薦業績を決定した。

(10) 学会活動の活性化： ウェブサイトやメールマガジン等による広報活動、及び連携学会・他学会・外部機関との連携強化を通じて、学会活動の活性化に努めた。

(11) ダイバーシティ推進の取り組み： 2019 年 3 月、8 月、12 月に男女共同参画学協会連絡会の運営委員会に参加し、議題を話し合った。第 130 回大会（2019 年 3 月 22 日）において、学会員の要望、問題、悩みなどを参加者で共有するランチョンワークショップを男女共同参画学協会連絡会後援のもと開催した。2019 年 10 月 12 日に行われる予定の第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムは台風 19 号の影響により中止となったが、開催団体のウェブサイトおよび冊子でのポスター発表を行った。ウェブサイトやメールマガジン等による広報活動を行った。第 131 回大会（2020 年 3 月 27 日）において、ダイバーシティ推進に係るテーマに関して学会として進むべき今後の報告性について、本学会の報告をはじめ、生態学会、木材学会、産業界、大学、森林総研、地方林試等からのダイバーシティ推進関係者と話し合うシンポジウムを森林総合研究所共催、男女共同参画学協会連絡会後援のもと開催する準備を進めた。

(12) JABEE（日本技術者教育認定機構）への協力： JAFEE（森林・自然環境技術教育研究センター）の基幹的な学会として、JABEE や JAFEE の活動・運営に協力し、関連学協会との連携を図り、森林分野の技術者教育の向上を進め、CPD（技術者継続教育）事業の推進に協力した。

(13) 連携学会（旧支部）との連携： 各連携学会（北方森林学会、東北森林科学会、関東森林学会、中部森林学会、応用森林学会、九州森林学会）大会を共催し、会長ほか役員を派遣した。また、2019 年 12 月に第 471 回理事会と併せて連携学会長会議を開催し、各連携学会の活動状況と課題を共有した。

(14) 日本木材学会との連携： 「日本森林学会と日本木材学会との交流に関する覚書」に基づき、相互に理事を派遣し、また学術大会へ役員を招待した。

(15) 公開シンポジウムの開催： 2019 年 5 月 28 日、東京大学農学部中島ホールにおいて公開シンポジウム「新たな森林教育研究の挑戦—研究と実践現場をつなぐ—」を主催した。第 131 回大会の公開シンポジウム「人と森と SDGs—東アジアからの報告」を企画し、国土緑化推進機

構「緑と水の森林ファンド」に応募，採択され，準備を進めた。

(16) 国際学術交流の推進： 東アジアをはじめとする諸外国との国際的学術交流を進めた。第 131 回大会運営委員会と協力し，大会の公開シンポジウムに，中国および韓国林学会より招聘した。また，学会ウェブサイトの英語ページをアップデートするとともに，第 131 回大会のお知らせの重要事項を英訳し公開した。

(17) 関連学協会への協力と社会連携の推進： 協力学術研究団体として日本学術会議に協力した。日本農学会の運営に協力し，運営委員を派遣した。ウッドデザイン賞サポート連絡会に参加協力し，防災学術連携体に参加した。第 10 回木材利用シンポジウム「木材でまちに活気を」（土木学会），地盤改良と地球温暖化緩和を同時に実現する「丸太打設による地盤対策工法(LP-LiC 工法，LP-SoC 工法)」ワークショップ（木材活用地盤対策研究会），公開シンポジウム「林業と建築における木材利用 ―川上から川下までの現状と課題―」（日本学術会議農学委員会林学分科会）をそれぞれ共催した。産学官連携推進シンポジウム「地球環境保全に貢献する森林・木材利用～新時代の幕開け～」（日本木材学会），次世代森林産業展 2019（株式会社日本工業新聞社），2019 年度シンポジウム「都市と森林 新時代―木の都市を考える―」（林業経済研究所），創立 60 周年記念シンポジウム「津波に”ねばり”強い海岸林の再生に向けて」（森林総合研究所東北支所），木材利用シンポジウム in 千葉（千葉県木材利用ネットワーク），2050 年日本の林業はどうなるか?―若手・中堅研究者が斬る―（林業経済学会），REDD プラス・始動元年 2020―持続可能な開発のための国際移転可能な成果に向けて（森林総合研究所），第 18 回木材利用研究発表会（土木学会），日本流体力学会年会 2019（日本流体力学会）をそれぞれ後援した。講習会：流体力学基礎講座（日本機械学会），講習会：混相流入門（日本機械学会），第 7 回アジアバイオマス科学会議（日本エネルギー学会），第 15 回バイオマス科学会議（日本エネルギー学会）をそれぞれ協賛した。

(18) 国内研究機関連携の推進： 森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査結果を，全国林業試験研究機関協議会において示し，意見集約を行った。

(19) 各種補助金の申請： 次年度以降は，科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公开发表」への発案を，連携学会及び会員から広く募集することとした。第 131 回大会で開催予定の公開シンポジウム「人と森と SDGs―東アジアからの報告」については，国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」に応募し採択された。

(20) 他機関等の賞，奨励金，助成金，公募等の広報及び候補の推薦： ウェブサイト，メールマガジン等により会員に対して随時，情報提供を行った。

(21) 学会運営の改善： 役員間や各委員間の連絡，代議員や会員へのお知らせに電子メールを活用し，会議費と通信費を節減するとともに，意思決定や情報提供の迅速化に努めた。計 12 回の理事会のうち 8 回はメール理事会によった。

(22) 林業遺産の選定： 新たに林業遺産 No.32「十勝三股の林業集落跡地と森林景観」,No.33「木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷」, No.34「琉球王朝時代の多良間島の「抱護」と『林政八

書』, No.35「郡上林業の歴史と技術を伝承する資料・展示と社叢林」の4件を新規に認定し、2018年度定時総会で発表した。会員を通じて2019年度林業遺産候補の推薦を募り、林業遺産選定委員会において審議を進めた。公募にあたっては、林業遺産選定事業の後援となった林野庁の協力を得て公募情報の普及に努めた。

(23) 中等教育との連携： 第130回日本森林学会大会において第6回高校生ポスター発表を実施した。発表件数は31件、参加校数は23校で、その中から最優秀賞2件、優秀賞3件及び特別賞2件を表彰した。発表ポスターと森林・林業を学べる大学・大学校紹介を掲載した「高校生ポスター発表ポスター集」を印刷し、配付した。当日の概要と講評を森林科学86号に掲載した。高校生ポスター発表参加校に対するアンケート調査を実施した。第131回大会における第7回高校生ポスター発表の準備を進めた。

(24) 代議員及び理事・監事候補選挙： 2020年定時総会終結時から2022年定時総会終結時までを任期とする代議員選挙（10月15日告示，11月28日投票締切），代議員選出理事・監事候補互選投票（12月5日告示，12月30日投票締切），会長・副会長候補互選会議（2月10日開催）を行った。代議員選挙と理事監事互選投票の投票率はそれぞれ35.3%，93.8%であった。

(25) 一般社団法人としての対応： 改選に伴い，理事を修正登記した。

(26) 会員数の動向：

	2017/3/1	2018/3/1	2019/3/1	2020/3/1	前期との差
正会員	2,435	2,383	2,377	2,287	△ 90
国内一般会員	1,871	1,839	1,875	1,795	△ 80
a)日林誌のみ	1,311	1,283	1,313	1,252	
b)+JFR	83	85	94	95	
c)+森林科学	215	218	220	201	
d)+両誌	262	253	248	247	
国内学生会員	553	533	492	486	△ 6
a)日林誌のみ	514	485	444	429	
b)+JFR	8	13	13	17	
c)+森林科学	10	13	10	19	
d)+両誌	21	22	25	21	
海外在住一般会員	7	6	4	4	0
a)日林誌のみ	6	4	3	3	
b)+JFR	0	1	0	0	
c)+森林科学	0	0	0	0	
d)+両誌	1	1	1	1	
海外在住学生会員	4	6	6	2	△ 4
a)日林誌のみ	1	2	2	2	
b)+JFR	3	4	4	0	
c)+森林科学	0	0	0	0	
d)+両誌	0	0	0	0	
機関会員	112	110	110	106	△ 4
国内機関	110	108	109	105	
海外機関	2	2	1	1	
賛助会員	39	38	38	40	2
合計	2,586	2,531	2,525	2,433	△ 92
準会員	229	226	223	211	△ 12